

短報 横浜市内都市部におけるいくつかの鳥類繁殖事例

七里浩志（横浜市環境科学研究所）

Bird breeding cases in urban areas of Yokohama

Hiroshi Shichiri (Yokohama Environmental Science Research Institute)

キーワード：都市鳥、コアジサシ、ハヤブサ、ヒバリ

要旨

横浜市内都市部において2024年にコアジサシの集団営巣を、2025年にハヤブサの繁殖成功を、2021年にヒバリの営巣を確認した。環境の変化に加え、生物も都市環境への適応といった変化があり、事例の蓄積によって環境や生態の変化を把握し、それに合わせた生物多様性保全戦略を策定することが重要である。

1. はじめに

都市化の進んだ横浜市は、概して鳥類の繁殖には厳しい環境であると言える。とりわけ河原や草地、耕作地などに営巣する種は営巣可能な環境自体が少なく、全国的な傾向¹⁾と同様、横浜市内でも減少傾向²⁾にあるようである。

一方で、都市の環境に適応して目撃頻度や繁殖確認事例が増えている種、さらには個体数を増やし、都市鳥と呼ばれる種もある。市内でも街なかの建物で繁殖するチョウゲンボウ³⁾や、公園、街路樹などで繁殖するツミ（七里私信）など、生態系上位に位置する猛禽類が確認されている。また、樹林性のオオタカやフクロウも市内の樹林地で繁殖が確認されている（七里私信）。

本稿では、市内都市部の人工的な環境下で確認された、比較的珍しいと思われるいくつかの鳥類繁殖事例について報告する。

なお、営巣場所については、詳細情報の掲載を控えた。

2. 確認記録

2-1 コアジサシ *Sternula albifrons sinensis*

主な確認記録を表1に、個体の写真を図1に示した。

神奈川県レッドデータブック⁴⁾では、繁殖期・絶滅危惧I類に選定されており、存続を脅かす要因として繁殖適地の消失が挙げられている。

2024年に神奈川区内の運河に面する工場跡地で集団営巣、育雛を確認した。

石礫地となった工場跡地で抱卵姿勢をとる成鳥および地上を歩き回る雛を目撃した。また、繁殖期後期には最大で30羽以上が周辺を飛翔しているのを目撃した。遠方からの観察のため、飛翔している個体に幼鳥が混ざっているかどうかを羽衣から判別することはできなかったが、繁殖に成功し、巣立った個体も複数いるものと推察された。

なお、翌年の2025年は当該地の土地利用状況に大きな変化はなかったが、先駆性の草本が若干増えたためか、営巣は確認できなかった。周辺運河上では1羽の成鳥を目撃した。

また、2024年は中区の山下公園前海域で魚を捕らえ、山下ふ頭方面へ運ぶ成鳥を目撃した。周辺に営巣地があった可能性がある。



図1 採餌するコアジサシ（2024/7/3）

表1 コアジサシの主な確認記録

確認地	確認日	年齢・個体数	確認状況	行動等
横浜市神奈川区守屋町	2024年7月3日	成鳥および不明34	目撃・撮影	営巣地周辺を飛翔。
		ヒナ3	目撃・撮影	地上を動き回るのを確認。
	2024年7月17日	成鳥および不明30以上	目撃・撮影	営巣地周辺を飛翔。
	2025年6月10日	成鳥1	目撃	運河上で飛翔、採餌。
横浜市中区山下町	2024年6月5日	成鳥2	目撃	海上で飛翔、採餌、餌運びを確認。

※確認者はいずれも七里。

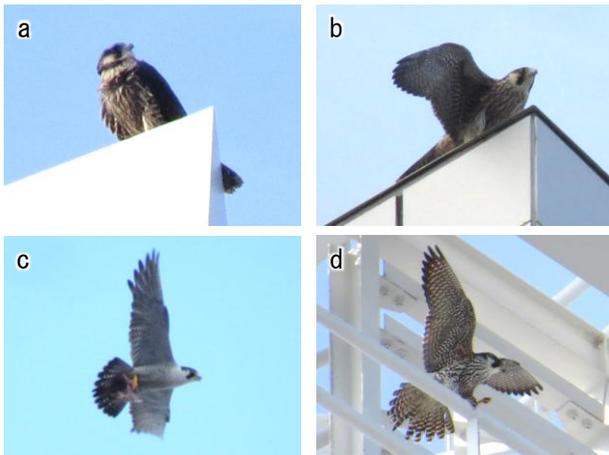
2-2 ハヤブサ *Falco peregrinus japonensis*

主な確認記録を表2に、個体の写真を図2に示した。神奈川県レッドデータブック⁴⁾では、繁殖期・絶滅危惧I類に選定されており、繁殖例はまれとされている。2025年に中区内のビルで1つがいによる繁殖、幼鳥1羽の巣立ちを確認した。

繁殖期に特定のビルの窓枠付近を出入りする雌成鳥や、周辺で見張りをする雄成鳥を複数回目撃した。出入りする場所は巣材や雛を直接目視することはできない位置であったが、6月20日に周辺で成鳥2羽に加え、飛翔のおぼつかない幼鳥1羽を目撃したため、繁殖成功と判断した。6月25日にも周辺で成鳥が幼鳥1羽に餌を運ぶ様子などが観察された。

当該地では、2022年、2023年にも1つがいが目撃されており、雌雄間での餌の受渡しや鳴き交わしなど、繁殖の兆候が見られていた。観察を実施した時間帯や頻度は限定的であったため、過年度も繁殖に成功していた可能性がある。

なお、2025年1月および5月には、当該地から2km程度離れた山下公園で、同つがいとは明らかに模様の異なる若いハヤブサを目撃している。



a: 巣立ち幼鳥 (2025/6/20) b: 巣立ち幼鳥 (2025/6/25)
c: 餌を運ぶ♀成鳥 (2025/6/25) d: 若鳥 (2025/1/24)
a~cは中区桜木町周辺 dは中区山下町

図2 確認されたハヤブサ

2-3 ヒバリ *Alauda arvensis japonica*

主な確認記録を表3に、個体の写真を図3に示した。神奈川県レッドデータブック⁴⁾では、繁殖期・減少種に選定されており、都市部で減少とされている。

2021年に神奈川区内の物流施設ビルの底上に施された屋上緑化部分で1つがいによる営巣、育雛を確認した。繁殖期に雄のさえずりが頻繁に確認されたため、横浜市環境科学研究所も入居している物流施設ビルの1階の底上に施された屋上緑化部分を確認したところ、ヒバリの巣および卵が目視できた。その後、孵化し、育雛を確認したが、孵化後数日後に雛が見当たらなくなり、巣立ち幼鳥は確認できなかった。屋上緑化は、草高10cm前後の植物が敷き詰められた植栽トレーを施設の底部分に並べたものであった。

当該地近隣のビル上空では、2019年以降、多くの年でヒバリのさえずりを確認しており、屋上緑化部分にて繁殖活動が行われていると推察される。ただし、同時に確認される鳴き声は1羽であり、周辺で複数ペアが繁殖活動をとっている様子は確認されていない。



図3 ヒバリ成鳥と卵 (2021/6/25)

3. おわりに

2019(令和元)年度の横浜市の緑被率は、27.8%で、うち樹林地が16.7%、農地が5.5%、草地在5.6%である⁵⁾。今後、緑被率が大きく増加することは考えにくく、緑地においては、量(面積)だけでなく質の向上が求められるところである。また、現在、緑地とされていない

表2 ハヤブサの主な確認記録

確認地	確認日	性・齢・個体数	確認状況	行動等
横浜市中区桜木町周辺	2022年5月2日	♂成鳥1、♀成鳥1	目撃・撮影	ビル窓枠付近への出入りを確認。
	2022年6月13日	♂成鳥1	目撃	ビルでの止まりを確認。
	2023年4月27日	♂成鳥1、♀成鳥1	目撃・撮影	ビル窓枠付近への出入りを確認。
	2025年4月4日	♂成鳥1、♀成鳥1	目撃・撮影	雄が雌へ餌を渡すのを確認。
	2025年5月8日	♂成鳥1、♀成鳥1	目撃・撮影	ビル窓枠付近への出入りを確認。
	2025年6月20日	♂成鳥1、♀成鳥1 幼鳥1	目撃・撮影	飛翔のおぼつかない幼鳥を初めて確認。
	2025年6月25日	♂成鳥1、♀成鳥1 幼鳥1	目撃・撮影	雌がビルの上に止まる幼鳥へ餌を運ぶのを確認。
中区山下町	2025年1月24日	若鳥1	目撃・撮影	
	2025年5月18日	若鳥1	目撃・撮影	

※確認者はいずれも七里。

表3 ヒバリの主な確認記録

確認地	確認日	齢・個体数	確認状況	行動等
横浜市神奈川区恵比須町	2021年5月28日	成鳥1	目撃・撮影	成鳥が巣に入るのを確認。
	2021年6月1日	成鳥1、ヒナ1	目撃	巣内にヒナを確認。
	2021年6月4日	成鳥1、ヒナ3、卵1	目撃・撮影	巣内にヒナを確認、ただし同月7日は卵1のみ。死卵の可能性あり。
	2021年6月25日	成鳥1、卵1	目撃・撮影	別の巣内に卵を確認。
	2021年6月28日	成鳥1、ヒナ1	目撃・撮影	
	2021年7月1日	ヒナ3	目撃・撮影	
	2021年7月2日	成鳥1	目撃	雨のなか巣上の親鳥を確認。
	2024年4月15日	成鳥1	目撃	
神奈川区守屋町	2019年6月20日	成鳥1	目撃	
	2022年6月15日	成鳥2	目撃	
	2025年5月22日	成鳥1	目撃	

※確認者はいずれも七里。

地域においても、今回の報告事例のように、開けた環境や攪乱地に見られる生物などが繁殖する場となりうることを踏まえ、生物多様性保全に寄与する取組が望まれる。

前述のとおり、生物も都市環境への適応といった変化があり、事例の蓄積によって環境や生態の変化を把握し、それに合わせた生物多様性保全戦略を策定することが重要である。

文献

- 1) 鳥類繁殖分布調査会：全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021年、175pp. (2021)
- 2) 七里浩志、中里亜利咲：横浜市における陸域生物調査 2012-2021 について、横浜市環境科学研究所報、47、35-43 (2023)
- 3) 七里浩志、千木良泰彦、牧寛：グランモール公園における鳥類・昆虫類調査結果について (第2報)、横浜市環境科学研究所報、42、34-38 (2018)
- 4) 高桑正敏、勝山輝男、木場英久：神奈川県レッドデータブック、神奈川県立生命の星・地球博物館、442pp. (2006)
- 5) 横浜市みどり環境局戦略企画部戦略企画課：令和元年度緑被率の調査結果について、https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/midori-koen/chosa/ryokuhi.files/0016_20200324.pdf (2025年8月時点)